

# みんなの居場所

## 裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年9月5日(金)

### 「つつけ」と「体罰」について知ろう

昨今、児童虐待の問題が話題になっています。ママでも取り上げられ、社会全体で考えるべき問題となっています。数年前は母親が飲酒のため幼子たちを人車に残し、亡くなるという事件が起きました。多くの事象を背景に「改正児童虐待防止法」と「改正児童福祉法」が成立し、令和2年4月から施行されました。この法律のポイントをいくつか挙げてみます。

- ① 親がしつけに際して体罰を加えることを禁止する
  - ② 民法の「懲戒権」は施行後2年をめどに見直しを検討する
  - ③ 児童相談所の一時保護で保護者支援の担当を設ける
  - ④ 児童相談所には医師と保健師を配置する
  - ⑤ 学校や教育委員会、児童福祉施設の職員に守秘義務を課す
  - ⑥ 都道府県などは親への再発防止の指導を行うように努める
  - ⑦ 家族が引越した場合に児童相談所間で速やかに情報を共有する
- 子どもへの「しつけ」を名目とした虐待が後を絶たないことから、体罰禁止を明確にし、児童相談所の機能強化を盛り込んだ訳です。また、子どもを戒めることを認めた民法上の「懲戒権」も令和4年にあり方を検討することになっています。これはこれまでの規定が「体罰を認める口実になっている」との批判があったためです。

児童の機能強化策では、子どもの一時保護をする職員と親への支援を行う職員を分離し迅速な保護につながる事、医師と保健師をそれぞれ各児童に1人以上配置するとなっています。

千葉県野田市で起こった事件では、暴行被害を訴えた女兒のアンケートを教育委員会が父親に渡していたことが問題となりました。現在の法律では学校や教育委員会、児童福祉施設に対して守秘義務を課すことになっています。

現在の法律は、事件や社会的な背景を受け、児童の保護について、強制力を持つて迅速に対応することができるようになったと言っていて良いと思います。具体的な場面を考えてみましょう。

ある児童が、保護者から平手打ちをされて頬を腫らして登校したとします。担任が可能な範囲で目視確認し、体に複数のあざや傷が確認され、聞き取りから体罰であるいは虐待であると判断された場合、我々には通告の義務がありますから児童相談所に通告します。その後、「刑法」と「民法」の規定によって、当該保護者は何らかの処分を受けることとなります。児童は保護者と離れて暮らすことになるのです。私には、その様な家族の状態は考えられません。

ある意識調査では、しつけのために体罰を容認する人が約6割にのぼるという実態があります。一方、世界ではすでに14カ国が体罰を法律で禁止している実態があります。また、児童虐待の第10項に「すべての児童は、虐待・酷使・放任その他不当な取扱からまもられる。過干渉をおかした児童は、適切に保護指導される。」との旨も。虐待、体罰は絶対にいけないことなのです。

### シリーズ「自分を語る」#3 1

さて、前回はい時勤務していた龍田小学校の校長先生と教頭先生がお見舞いというしゃった場面まででした。

校長先生が重たそうに口を開きました。  
「澤田先生、申し訳ないんだけど年休が無くなってしまっただけでねえ、規則で解雇ということになってしまっただけで、本当、申し訳ない。」

私はショックを受けたものの、当りの前の事ですから事実を受け入れることにあまり時間はかかりませんでした。主治医から退院の予定を聞かされたからは、前向きに治療に専念しました。ただ気になっていたのは、何故か当時の龍田小学校の校長先生が、私が臨床であることを保護者や児童に伝えてなかったことです。それまで、子ども達と保護者の関係が良好だったため、6年まで持ち上がりという風な噂が流れていたんですね。担任としては嬉しいのですが、今後どうなっていくのかが不安でした。

一応「ク」になった私は、体力を落とさないように病棟中を歩き回りました。点滴を引く張るあのキヤスター付きの「コロコロ」は、真ん中から取り外し可能で、キヤスターを外したものを持って歩く姿は何とも滑稽でした。点滴で生かされていても体重はどんどん減っていく。当時のバスター体重は61kgだったのですが、2週間の入院で56kgまで減りました。そんな中、ある日の夕方の回診の時、待ちに待った知らせが！ 食事の許可です。

次の日、朝から楽しみで仕方がなく、早起きして病室で朝食を待っていました。来ました！ 「澤田様」の札の乗ったトレーが！ 看護師さんが大切そうに運んでくれます！ 私は「ありがとうございます。」と礼を言ったら、看護師さんも「良かったですね」と声を掛けてくれて、涙の出る思いでした。さて、食べるぞー！ ！ってトレーを見ると、透明の「汁」と薄く白濁った「米の研ぎ汁」って正確に言って、味噌汁の上澄み、粒なし御粥です。これはショックでした。この食事が1週間続く事になりました。

ちょっと話が下ネタになりますが、お許しください。2週間の絶食をしても、便は出るんですよ、不思議でしょう。いわゆる宿便というやつです。宿便は茶碗が少しづつ汚れるのと同じ原理だそうなんです。少しづつ貯まっていくなさそうです。それが別の病気の原因となるらしく、たまには出した方がいいらしいです。絶食して腸が空っぽになっても蠕動（ぜんどう）運動は続けられるため、貯まっていた古い便が出るのが宿便なのだそうです。最終的に、いわゆる流動食による食事が更に2週間続き、私の体重は、退院時は52kgでした。普通食は退院の日の朝食のみで、スバゲティだったことを鮮明に覚えています。退院は平成23年3月2日、正式採用まで1カ月を切っていました。

それから暫くの間、食べるものはあつさり系のものはかり。…白身魚とかうどんとかばかりで、食べる量も少なくなっていたので、体重はキープしているものの、また、体力が入らないといった具合でした。体力つくりのために、退院後の1カ月は外によく出ました。そうでない日は本を読みあさりました。この時期は採用の連絡を楽しみにしていました。他の事が考えられないくらいに、ウキウキだったのだと思います。3月下旬、一本の電話が…。(つづく)